－所蔵作品紹介－

高橋　北修　TAKAHASHI Hokushu

ことぢ像

ことぢぞう

作品データはこちら

道北地方、最初の本格的なグループ展と思われる、ヌタクカムシュッペ画会が大正８年、旭川に誕生しています。これは、当時の美術愛好家達によって結成されました。この画会の中心的な役割を果たし、その他帝展や文展を発表の場にし、道展創立会員、全道展の結成に参加するなど、”道北の美術”をリードしてきた人が高橋北修（1898～1978）です。

初め日本画を志していた北修は東京の本郷洋画研究所で洋画を学び、又、同郷の上野山清貢を知ることによって洋画に転向しています。大正13年、東京から旭川に帰った北修は、ヌタクカムシュッペ画会が改称した、旭川美術協会の会長をつとめるかたわら活発な発表活動を続け、昭和６年、第12回帝展に初入選、19年、第５回道展で市長賞受賞、20年には第１回旭川市文化賞等を受賞しています。昭和37年脳いっ血で右半身不随となり、その画風は変わりましたが、その創作意欲は衰えず新作発表を続け、43年には北海道文化奨励賞を受けています。

この作品は現存する作品の内では最も早い時期のものです。ヌタクカムシュッペ画会の頃と思われます。北修は身近な人達の絵を多く描いておりますが、これも自分の家族の一員と思われます。荒い筆致の中にもてきかくなフォルムのつかみ方は、素描家としての優れた面もみせています。

旭川美術館だより「氷華」No.６（1984.10発行）「収蔵作品から」より